

## 深谷市の概要

深谷市は埼玉県の北部に位置し、都心から 74 km の距離にある。東は熊谷市と妻沼町、西は岡部町と本庄市、南は川本町・花園町・寄居町、北は利根川を境に群馬県に接している。江戸時代には中山道の 10 番目の宿場町として栄え、地場産業の窯業や養蚕が盛んであった。明治時代には日本煉瓦製造株式会社が設立され、この工場で作られた煉瓦で東京駅や迎賓館等の明治・大正時代の日本の代表的な建物が建築されたことから、「煉瓦のまち」としても知られる。また、日本近代資本主義の立役者として活躍した渋沢栄一は深谷市血洗島出身で、日本で初めての株式会社を創設、生涯 500 余りの会社の設立に関わり、社会公共事業や国際親善にも貢献した。

昭和 30 年 1 月 1 日に深谷町・藤沢村・幡羅村・明戸村・大寄村の 1 町 4 村が合併して市制を施行し「深谷市」が誕生、昭和 48 年 4 月 1 日に豊里村を合併し現在の深谷市となる。市域は東西 9.61 km、南北 12.16 km、面積 69.40 k m<sup>2</sup>。昭和 50 年代に上柴ニュータウン(266ha)が造成され宅地化が進展した。平成 16 年 7 月 1 日現在、人口 104,428 人、世帯数 36,925 世帯で、近年は人口がほぼ横ばい、世帯数が増加傾向で推移している。市の北部は利根川が運んだ土砂等でできた肥沃な低地(妻沼低地)が広がり、南部は荒川が運んだ土砂等でできた乾燥した台地(櫛引台地)が広がっている。低地と台地の境界付近に J R 高崎線が東西に走り、市のほぼ中央に深谷駅がある。市街地は駅の北側を中心に広がっている。

鉄道は J R 高崎線「深谷」駅を利用して上野・池袋方面、高崎方面へ連絡しており、市の南部を J R 上越新幹線が東西に横切っている。バスは深谷駅から籠原・熊谷駅方面へ、また平成 12 年から市内循環バスが市役所を中心に 4 路線で運行している。道路は市の中央部を国道 17 号が北部を国道 17 号深谷バイパスが東西に横切り、市の北東部を上武道路(国道 17 号)が北上し利根川を渡って群馬県へと通じている。

市の産業は、北部の妻沼低地一帯で農業が盛んで、特産品の「深谷ねぎ」は味・質・量ともに日本一の全国ブランドとして有名である。南部の櫛引台地は土地改良等の努力により花卉栽培が盛んで、チューリップ(切花)の生産が全国一である。工業は昔から地元でとれる良質の粘土を利用した瓦や土管、煉瓦の製造等の窯業が盛んであったが、昭和 37 年に完成した深谷工業団地に電機、機械、金属、化学等の大手企業が進出し、工業都市としても発展した。商業は上柴ニュータウンに大型ショッピングセンターがあるほか、国道 17 号の沿道に商業施設が集積しているが、古くからの中心市街地は衰退している。

現在「まちづくり新生計画(第 4 次総合振興計画)」に基づき 10 の戦略プロジェクトを掲げ、中心市街地活性化や農業安定化、ユニバーサルデザイン推進等に取り組んでいる。また、特産物の花を生かした「ガーデンシティふかや構想」を策定し、ガーデニング教室を開催したり、全国ガーデニングサミットへの参加や、ふかや花フェスタを 10 月に開催する等、各種事業を展開する予定である。

平成 16 年 7 月 12 日作成